

# エイズ

## 性的感染

④

「お母さんの分まで幸せにしたい」と冷たかっ

女性「駆け込み寺」として知られる「HELP」(東京)のディレクター松田瑞穂さんは、赤ちゃんの顔をなでながら、そう願わずにはいられなかった。赤ちゃんは、まもなく善意の夫婦にもらわれていく。そんな大人たちの思いをよそに、赤ちゃんは、無邪気にクッキーをしゃぶっていた。

# 潜在化招く貧しい心

HELPには、不幸な外国人女性が毎日のように保護される。エイズウイルスに感染した二十五歳のタイ人女性もその一人だった。

◇

一昨年夏の暑い日、彼女は関東地方の病院で出産した。父親はスナックで知り合った妻子持ちの日本人男性。病院に駆けつけた男性は「父親はおれじゃないかもしれない。妻に

のだが……。

彼女の感染を知った男性の動揺も大きかった。自分も感染しているかもしれない。そして妻にも……。「遊んでいるのは自分だけじゃないのに」。病院のソニールケースワーカーにそう漏らしたという。

出産から数日後、彼女は病院から都内のHELPの施設に移った。面会に来た男性は「タイへ帰って待つてる自信がなくなったのか

てる。時々会いにく」とも「かもしれない」と推測する。

言った。松田さんも「赤ちゃんも辛い感染してないことがわかった。」

国内で確認された外国人女性の患者・感染者数は平成四年の二百七十四人をピークに減少している。昨年は百二十九人、今年四月までの報告数は三十九人。

## 外国人女性

大都市ではボランティア団体が中心になって、エイズに関する電話相談窓口を設けている。が、少ない予算とスタッフ不足から十分な対応ができないのが現状。そんな中で、外国人を対象に先駆的な役割を果たしてきたAMDA国際医療情報センター(電話03・52605・8008)に、過去二年間に寄せられたエイ

### 8か国語で電話相談

ズ関連の医療相談は七十二件を数えた。相談内容は検査希望が最も多く四十二件。「エイズの知識」が十三件、「患者・感染者」について相談が八件など。同センターでは、英語、中国語、スペイン語、タイ語など八か国語で対応しているが、PR不足もあり、多くの相談希望者が埋もれているものとみられる。

「感染者が減っているのではなく、検査数が減っているだけ」と、エイズの潜在化を懸念する清水

検査に来なくなった。感染がわかると、帰国させられ、店を追いやられるケースも少なくない。「働く女性の数も少なくなつたが、業者も、エイズとわかると、商品価値が減ると考えているからではないか」と清水医師。外国人女性を性的対象と訪れていたタイ人女性が、今は三日に一人ぐらいしか

